

4月10日(水) 朝礼のお話し

一番大事な「聴く」ということ

校長先生、今日からまたこうして全校朝会でお話をさせていただきます。一生懸命お話しをするので聞いてくれるとうれしいです。

さて、今年第一回目のお話しです。実は校長先生、校長先生になってからずっと毎年の最初の朝礼では同じ話をしています。去年もこのお話をしました。2年生以上の人で「あああの話か！」とってくれた人は去年のお話をよく聞いてくれた人ですね。校長先生が毎年同じ話をするのはそれが学校で一番大切なことだからです。

それでは今日のお話です。

みなさんは学校でお勉強するとき、一番大切なことはなんだと思いますか？

国語でも算数でも体育でも音楽でも、どんな授業でも一番大切なことです。授業だけではなく、お友達と楽しく生活していくためにも大切なことです。それは何でしょう？

それは先生やお友達の話「聴く」と言うことです。

高学年の人は知っていると思いますが、「きく」という言葉にはいくつか漢字があります。皆さんがよく知っているのは「聞く」、この字だと思えます。でも、今日、校長先生がお話しするのはこの「聞く」ではではありません。

もう一つの「きく」です。

それはこんな字です。「聴く」これも「きく」と読みます。

ではこの「聴く」はどんな意味なんでしょう？

この「聴く」は「なんとなく聞く」ということではありません。一生懸命聴く、必死で聴くという意味です。学校のお勉強や生活ではこの、「ものすごく一生懸命聴く」ことが大切なんです。

ではどうやったらそういう聴き方ができるのでしょうか？

それはこの「聴」という文字の中にヒントがあります。この「聴」という字を分解してみましょう。

まずここです。これは「耳」ですね。耳がちゃんと働くためには自分がおしゃべりして他はだめですね。まず耳がちゃんと働くために、自分のおしゃべりはストップです。おしゃべりしながら真剣に聴くことはできませんよね。

次はこれです。横になっていますがこれを縦にすると「目」です。これはお話しを聴くときは話す人をしっかり見るということが大事だと言うことです。

最後はここ、これは「心」ですね。

「心で聴く」というのは、お話しをしている人のこと、お話しをしている中身を一生懸命考えながら聴くということです。

さあ、この三つを合わせると上手な聴き方になります。

つまり、「目と耳と心で聴く」ということです。これが一番大切な聴き方です。

校長先生はけやき小を「日本一お話を聴くことが上手な学校」にしたいと思っています。それが校長先生の目標です。去年一年間でこの目標はぐっとゴールに近づきました。どの学年もお話を聴くのがとても上手になったと思います。でも校長先生はこれで満足しているわけではありません。けやき小のみなさんはもっともっと素晴らしい「聴く」ができると思っています。今年もこの目標に向かって一緒にがんばっていきましょう。

それでは校長先生のお話はこれでおわりです。最後まできちんと聞いてくれてありがとうございました。しっかり目と耳と心で聴いてくれましたね。お話しを終わります。